

# 収穫祭 1月14日(木)

今年度の生産活動のまとめとして、1月14日(木)に「収穫祭」を開催しました。

新型コロナウイルス感染予防、感染拡大防止に取り組みながら、いずみ野小学校の学習活動の柱である生産活動においてどんな活動ができるのかを、子どもたちは学習活動の課題にし、時間をかけて検討を重ねてきました。

長年にわたっていずみ野小の子たちは、どうして本物の田んぼや畑を使って、お米やさつまいもを作っているのか。田んぼや畑のオーナーさんは、なぜ自分たちに田んぼや畑を貸してくれるのか。また、穫れた作物をこのコロナ禍の中でどう食物にしていくのか。伝統のもちつきはぜひ今年もやりたいが、どうしたらできるのか。などなど様々な課題がありましたが、子どもたちは一つひとつ課題を解決しながら、感謝と学びの発表の場として、「収穫祭」を企画しました。

## 児童企画 感謝の会 (TV放送)



横山 義一 様、横山 正美 様、大木 節裕 様、飯澤 良江 様、石井 翔大 様、技術員2名をお招きし、子どもたちからの感謝の手紙を贈りました。そして「また来年も田畑を貸してください。」と力強い言葉でしめくくりました。尚、当日欠席された保護者代表 伊原 暁 P T A会長様には前日に感謝の手紙を贈りました。



体育館には、低学年が作ったサツマイモの蔓リースの作品アルバムや4年生が作った藁細工、藁の活用方法研究のまとめを展示しました。

なかよし班1～6年生と一緒にゆっくりと見学していきました。



「よいしょ！」のかけ声の代わりにみんなで手拍子でもちつきを応援、見学しました。翔大さん、技術員の藤田さんも自然と力が入りました。

つき終えたおもちは、鏡餅にして、各教室に飾りました。上に乗せているのは、学校で穫れた「へべス」という柑橘です。



校舎内のあちらこちらには5年生や3年生が考えた「生産活動クイズ」が掲示され、なかよし班の仲間同士、力を合わせて考えました。そして答えをカードに記入していきました。また、6年生が取り組んだ3年間の生産活動の総まとめを各班の集合教室で発表しました。

自分たちの力でやり遂げたことはとても大きな財産となりました。